

2021年2月12日

各 位

会 社 名 株式会社Kaizen Platform  
代表者名 代表取締役執行役員 CEO 須藤 憲司  
(コード: 4170、東証マザーズ)  
問合せ先 経 理 財 務 部 部 長 朝 井 秀 尚  
(ir@kaizenplatform.com)

通期業績予想と実績の差異、並びに、  
営業外収益、法人税等調整額(益)の計上に関するお知らせ

2020年11月18日に公表しました2020年12月期(2020年1月1日~2020年12月31日)の連結業績予想と実績に下記の通り差異が生じました。また、2020年12月期において、下記の通り営業外収益及び法人税等調整額(益)を計上いたしましたのでお知らせいたします。

1. 2020年12月期の連結業績予想数値と実績の差異(2020年1月1日~2020年12月31日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益 又は営業損失 ( △ )	経 常 利 益 又は経常損失 ( △ )	親会社株主に帰 属する当期純利 益又は純損失 ( △ )	1株当たり 当期純利益又は 純損失(△)
前回発表予想(A)	1,653	2	△21	△31	△4円12銭
実 績(B)	1,686	23	36	107	13円84銭
増 減 額(B-A)	33	20	58	139	—
増 減 率(%)	2.0	856.2	—	—	—
(参考) 前期実績 (2019年12月期)	1,354	△162	△150	△162	△26円77銭

- (注) 1. 2019年12月期の1株当たり当期純損失(△)は、期中平均株式数により算出しております。  
2. 2020年12月期通期連結業績予想の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(375,600株)は考慮しておりません。

2. 差異の理由

当社グループは、「世界をKaizenする」をミッションに事業を行い、企業のDX推進を支援するプラットフォームとサービスを提供しております。具体的には、クライアントのWebサイトのUXを改善することで、CVRを向上させ、クライアントのWebビジネスの成長を支援するUXソリューションと、企業のDXをトータルサポートするDXソリューションを提供する「サイトソリューション事業」と素材から目的に合わせ、最適なクリエイティブを制作できる動画ソリューションを提供する「Kaizen Video事業」を展開しております。

「サイトソリューション事業」では、クライアントのDX推進のニーズを的確に捉え、前回発表時点の想定よりも順調に新規クライアントの獲得及び既存クライアントの継続が進捗いたしました。また、「Kaizen Video 事業」では、新型コロナウイルス感染症の影響による非対面活動の増加に伴う、営業資料、チラシやパンフレット等の紙媒体の動画化等の案件が増加し、ほぼ前回発表予想通りに推移いたしました。そのため、売上高は1,686百万円と前回発表予想を上回りました。

売上原価については、コストコントロールの結果、前回発表予想を下回る864百万円となりました。

販売費及び一般管理費については、コストコントロールを行いつつ、当社及び当社サービスの認知度向上のためのテレビ広告などのマス広告を中心に広告宣伝費を積極的に投下したため、前回発表予想より増加し798百万円となりました。

営業外損益については、「3. 営業外収益の内容」に記載の通りであります。

また、法人税等調整額については、「4. 法人税等調整額（益）の内容」に記載の通りであります。

以上の状況より、営業利益、経常利益又は経常損失、親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失が前回発表予想を上回る実績となりました。

### 3. 営業外収益の内容

当連結会計年度におきまして、営業外収益の為替差益40百万円計上いたしました。これは主に、円高の影響により、連結子会社からの借入金の為替相場による評価替えで発生したものであります。

### 4. 法人税等調整額（益）の内容

当連結会計年度の当社業績及び今後の業績動向等を勘案し、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、回収可能性が見込まれる部分について、法人税等調整額（益）として80百万円を計上いたしました。

以 上